



eラーニングを次のステージへ： つくる、運営する、評価する

熊本大学大学院教授システム学専攻



鈴木 克明

ibstpi <http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>



ibstpi 理事・日本医療教授システム学会(JSISH)理事・日本教育メディア学会副会長・日本教育工学会評議員・教育システム情報学会理事・日本eラーニングコンソシアム名誉会員

eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授システム学専攻

1



熊本大学大学院 教授システム学専攻

2

eラーニングのこぼれ話 みんな悩んでいます！

- ・ 動画を見せたい: 自主制作ビデオで実習前指導
 - 繰り返し見ることができるのでありがたい
 - 見たいところが見えない
 - 撮影の角度は？
 - 画面は2方向から？
 - 凝れば凝るほど手間暇がかかる



eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授

3

eラーニングのこぼれ話 みんな悩んでいます！

- ・ 文字だけでなくケースをリアルに表現したい
 - イラスト+患者の声？
 - 患者のイメージを共有できて
実習がはかどる
 - 制作資金が続かない



eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授

4

eラーニングのこぼれ話 みんな悩んでいます！

・小テストで実力養成したい

- LMS自動採点のクイズ
- 何回もチャレンジできるのがよい
- やっているうちに正解を
丸暗記しちゃう
- パソコンじゃなく携帯でやりたい



eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授

eラーニングのこぼれ話 みんな悩んでいます！

・基礎学力アップのための補講をしたい

- 2週間で導入教育(復習)
- 未履修科目も基礎からしっかり学べる
- 〆切が迫るとただこなすだけ
- なぜ最初の2週間で完了させる
必要があるのか？
- ジャストインタイム研修



eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授



eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授システム学専攻



■本日のメッセージ

- ・(評価)今どのステージにいるかを把握しましょう
:悩みの分類学「レイヤーモデル」
- ・(制作)隣の芝生を参考に次のステージに進みましょう:**つukらないeラーニング?**
 - 他人が作ったものを使わせてもらう;他人のアイデアを盗む;出典を明記して感謝する
 - 中長期的にもとがとれることにしか手を出さない:適正初期投資量

eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授システム学専攻



■本日のメッセージ

- ・ (運営) eラーニングはまずここから始めよう:
自動採点・自動記録に頼る運営
 - 教師が楽をして学生がせっせと励む構造をつくる;
省力化・未完成品・リピートの勧め
 - 人間がしないでもいいような低レベルなことは機械に委ねて**余力を生み出す**



■本日のメッセージ

- ・ (評価) eラーニングを目的から手段へ変えよう:
評価から逆算する焦点化設計
 - 余分なことは学生の迷惑; 強制は出会わせるためだけ、あとは自主的にたつぷりと
- ・ (評価) 学生の学習力アップのためにeラーニングとIDを使おう:
教えないで教育する?
 - 講義は情報提供以外に使う時間: 予習の成果を確認する時間: 共同練習の時間
 - IDを学習のヒントとして学生に教えれば、教えないでも育つ学生が育つ



eラーニングの導入が やいばなしの教育を防ぐ

- 1) eラーニングは残る。残るものはちゃんとやらなければならない(**みっともない**)。そこに、これまでの教育の再点検が始まる契機がある。
- 2) 大学教員は「教育技術」の体系的訓練を受けていない。教育については**無免許運転**。
- 3) 4年間でどのような**付加価値**をつけて卒業させるのか。大学の大量化・学生の能力差拡大への対処。
- 4) 研究重視で教育はサービス? **自分の弟子**を効率的に育てる術を身につける必要はないのか。
- 5) Professor(告白する人)から学生の実力向上請負人へ: 研究方法論に並ぶ**教育方法論の基盤**を。